

令和7年度第3回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録

日 時 令和7年11月27日（木）10:00～11:30

場 所 事務局第一会議室及び Microsoft Teams 併用

出席者 [会議室] 坂井学長、石井理事、野中理事、木崎理事、中村理事、市川理事
利根委員、堀光委員、真下委員、山名委員
[Teams] 萩原委員

欠席者 栗原委員、平本委員、吉田委員

陪席者 [会議室] 小俣監事、山中監事

[Teams] 市橋副学長、田代副学長、長澤副学長、伊藤副学長
水村人文社会科学研究科長、井原経済学部長、宮田教養学部長、
重原理工学研究科長、若狭理学部長、奥井工学部長

○ 学長から、栗原委員、平本委員、吉田委員が本会議を欠席する旨報告があった。

○ 令和7年度第2回議事要録の確認について（資料1）

令和7年度第2回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録（案）の確認が行われ、承認された。

※各事項における意見等は次のとおり（☆学外委員、△学内委員等）

○ 審議事項

1 国立大学法人埼玉大学教職員給与規則等の一部改正について

木崎理事から、資料2に基づき、国家公務員一般職の職員の給与に関する法律等の一部改正等に伴い、標記規則等について所要の改正を行う旨の説明があり、審議の結果、承認された。

2 令和7年度学内補正予算について

木崎理事から、資料3に基づき、令和7年度学内補正予算の概要及び年度当初予算からの主な増減要因について説明があり、審議の結果、承認された。

☆ 外部資金に係る間接経費の収入増加分について、支出予算上「事業経費」と「間接経費教員配分」に分割して配分されているように見受けられるが、間接経費を獲得した研究課題等に対して適切に還元されているという認識でよいか。また、授業料収入の増加分について、今年度特有の臨時的な財源であるのか、あるいは例年想定した歩留まり率に応じて増減するものなのか、予算の安定性の観点から説明願いたい。

△ 間接経費収入については、管理部門に係る経費に充当することが可能であるが、

当該外部資金を獲得した教員に対しても一定の配分を行っている。授業料収入については、3月の当初予算編成時点においては、過去の入学実績等に基づき収入見込み額を計上しているため、その後の入学状況等により差が生じる構造となっている。今年度については、本学の財政状況を踏まえ、特に各部局において歩留まり率を勘案しつつ、定員超過限度に近い水準まで学生を確保した結果、授業料収入の増加につながったものである。

☆ 当初予算編成において留保していた教員配分経費について、今回の補正により戻しているとの説明があったが、どの程度の水準まで戻したのか。

△ 教員配分経費については、当初予算編成時に留保していた分を戻し、例年と同程度の水準としている。

3 学内予算によるプロジェクト事業について

木崎理事から、資料4に基づき、令和7年度学内予算によるプロジェクト事業として、昨年度に引き続き、脱炭素化推進のための設備機器等の整備・更新等に取り組む旨説明があり、審議の結果、承認された。

○ 報告事項

1 統合報告書 2025 について

学長から、机上配布資料に基づき、本年度の統合報告書を発行した旨の報告があり、その概要の説明があった。続いて、各担当理事及び副学長から、報告書に掲載したトピックスの概要について説明があった。

☆ 掲載されたトピックスの中で、アントレプレナーシップ教育に注目した。埼玉県では、今年7月に「渋沢 MIX」をオープンし、スタートアップ支援を通じたイノベーション拠点の創出に取り組んでいる。アントレプレナーシップ教育は、渋沢 MIX のコンセプトである「イノベーション人材の育成」と非常に親和性が高いことから、引き続き本学と相互に連携・協力していきたいと考えている。渋沢 MIX の伴走型支援プログラム「GAKU∞STA」には、本学からも3チームが参加していると伺っている。地元の大学として渋沢 MIX を盛り上げていくため、今後も本学から意欲ある学生に積極的にチャレンジしてもらいたい。

△ アントレプレナーシップ教育に関しては学生の関心も高く、起業を具体的に検討している学生や、既に起業している学生もいることから、今後の展開に期待したい。

☆ 国立女性教育会館は、令和8年4月から「男女共同参画機構」へと発展的に改組される予定であり、今後は、ダイバーシティの推進や女性の経済的自立に向けたアントレプレナーシップ教育・支援が一層重要となる。このため、本学との連携をこれまで以上に強化したいと考えている。また、学内の DEI コミュニティ라운ジの整備により、国立女性教育会館所蔵図書のパッケージ貸出が再開されたと伺っており、こちら

も来年度以降さらに強化していきたく、引き続き連携をお願いしたい。

△ 今後も、国立女性教育会館との連携を一層強化していきたいと考えている。

2 令和6年度計画自己評価書について

長澤副学長から、資料5に基づき、令和6年度計画の実施状況及び評価指標の達成状況について説明があった。

☆ 組織の評価において、改善を要する点は「伸びしろ」と捉えることが重要である。

その伸びしろに対し、上位のマネジメント層がどのようにテコ入れを行うのか、また、改善を要する組織が自立して改善していくために、具体的な提言を行っていく必要がある。さらに、取組の評価を満足度のみで判断した場合、満足度は高いものの本来の目標達成に至らないケースもあり得ることから、目標の達成水準を満足度の数値のみで判断することの危険性についても留意すべきである。

△ 改善を要する点については、各責任部局において鋭意対応を進めているところである。年度計画の評価に関しても、評価Ⅲ（「年度計画を実施している」）にとどまることなく、さらなる向上を意識した取組が必要であると認識している。いただいたご意見を真摯に受け止め、引き続き改善に努めていきたい。

○ その他

1 次回日程（令和8年1月29日（木））

学長から、次回日程の開催時刻については、改めて各委員のご都合を伺いたい旨の連絡があった。

以上